

第 4 回厚木市本厚木駅周辺まちづくり推進会議

(1) 目指すまちの姿について

< 論点 >

1. 目指すまちの姿について

1 委員意見への対応

第3回厚木市本厚木駅周辺まちづくり推進会議【令和3年12月24日開催】

(1) 目指すまちの姿について

意見概要	対応	意見概要	対応
<p>p.9の「<u>乗換動線から回遊動線へ</u>」と「<u>歩行者空間が生まれ変わる</u>」の説明図の違いが分かりにくい。前者の図に、厚木中央公園を加えるとより分かりやすくなる。</p>	<p>まちづくりの展開修正 (P3)</p>	<p><u>厚木中央公園から相模大橋につながる道は、歴史的にもポテンシャルがあり、川へ向かうルートとして重要と考えられる。</u>計画の趣旨と合致するのであれば、ネットワークとして加えた方が良い。</p>	<p>相模川は、中心市街地にありながら心理的距離が遠いことが課題である。まずは人が行き交う結節点と相模川を迷わず行き来できる動線が必要と考え、かわまちの道を提案している。相模川沿いにはすでに散策路があるため、かわまちの道ができれば回遊性は高まると考えられる。</p>
<p><u>ワークショップで情報発信したり、写真を撮りたくなる場所の重要性が示されている</u>ので、目指すまちの姿のどこかで読み取れるように表現として追加されたい。</p>	<p>方針2修正 (P4)</p>	<p>中心市街地と相模川を結ぶ2本の<u>黄色い道は、一周できるようなルートにした方が、楽しくなると思う。</u></p> <p>現在人が集まっているような相模大橋近くの厚木神社や三川合流点のBBQ場とはつながらない位置であり、<u>今の黄色の動線の先には人が集まりたくなるような仕掛けがないように見える。道を整備していくのであれば、その先に目的地が必要である。</u></p>	

※その他の御意見については、提言書(案)に反映

2つの結節点から拡がり、豊かな日常の光景が点在する「歩いて楽しいまち」

本厚木駅と厚木バスセンターの2つの結節点はまちなかを歩くきっかけとなる重要な拠点である。それらと一番街通りを始めとする商業施設や公共空間を結ぶ歩行者動線の充実、さらには通勤や通学、移動の途中などにもつい立ち寄りたくなる仕掛けなどによって、乗換動線だけでない豊かな日常の光景が点在する“歩いて楽しいまち”を目指す。

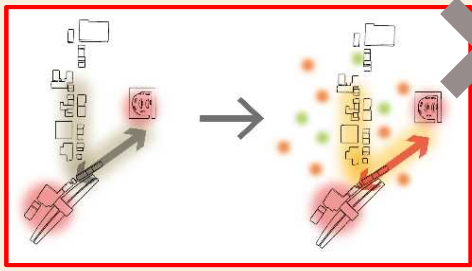
目指すまちの姿（案）のイメージ
～回遊エリアと周辺資源を結ぶネットワークの形成～



歩いて楽しいまちづくりの展開

■魅力的なスポットの拡大

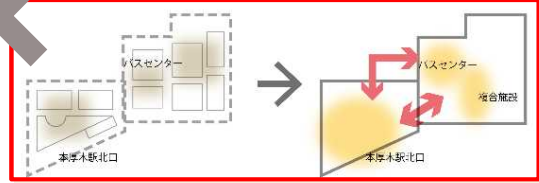
民間のアイデアと行動力を活かした公共空間の利活用や施設の充実で、魅力的な場所が増え、まち歩き範囲が広がり始める。



限られた場所だけに歩行者が集中 → まちなかに魅力的な店舗や施設が増加

■都市基盤のリニューアル

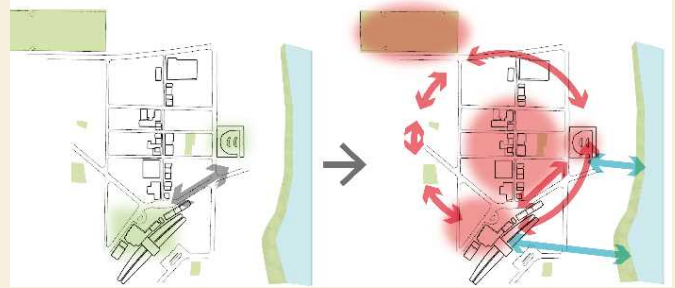
結節点周辺のリニューアルで、駅周辺が歩行者目線の都市空間に生まれ変わる。



施設の老朽化や歩行者空間の不足 → リニューアルで、歩行者目線の都市空間へ

■点在するまちの資源がつながり、歩いて楽しいまちへ

まち歩き目的地となる大小様々なまちの資源（魅力や発見など）が歩行者目線でつながることで、歩いて楽しいまちとなる。

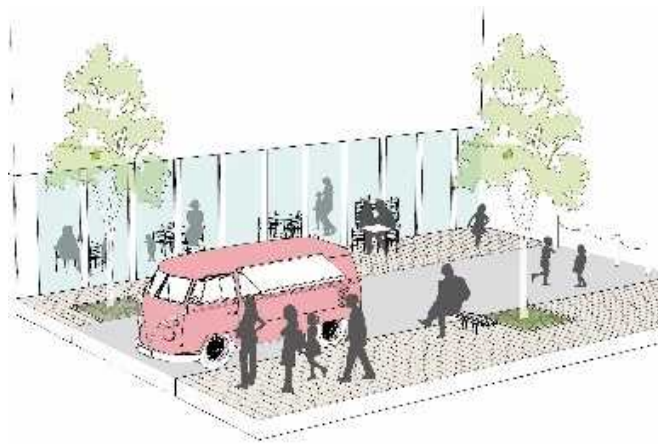


点在するまちの資源 → まちの資源がつながり歩いて楽しいまちへ

目指すまちの姿を実現するための3つの方針

方針1 歩きやすい空間づくり

人が集まる施設や空間を歩行者中心の空間でつなぎ、その周辺ににぎわいを生み出すと共に、災害時にも安全に移動できる空間を形成する。



〈例〉建物空地の活用

方針2 まち歩きのきっかけづくり

まちなかで思い思いの時間を過ごしたり、SNSなどでも誰かに伝えたいくなるような歩行者目線での既存ストックの利活用やセーフコミュニティ活動などを推進し、駅周辺に訪れるきっかけを増やす。



〈例〉都市公園等のストック活用

方針3 自分ごとでまちを育む

目指すまちの姿の実現に向けて、まちづくりの担い手となりうる民間事業者や住民の皆様等と行政が連携して、持続的にまちの魅力や価値を高める。



〈例〉市民によるまちづくりの支援
（備品の貸出、利用窓口の整備等）